

## 4 成果と課題

### 【学校生活】

- ・ 「学校が楽しい」と答える児童が93%います。しかし、昨年度と比べ1ポイント下がっています。ハイパーQ Uテストなどの結果の有効な活用方法の研修を更に深めたり、毎学期行っている生活アンケートからの教育相談で児童の心の安定を図っていきたいと思っています。また、「楽しくない」7%の児童について、全職員の共通理解のもと生徒指導を進めることで、この児童に光を当てていく必要があります。
- ・ あいさつ、掃除、履き物をそろえるなどの学校生活の基本的な部分の項目で、児童の多くは「できている」と答えています。篠田っ子見守り隊の方からも「挨拶ができるようになってきた」とのお言葉をいただくこともあります。しかし、保護者や教師の目から見ると基本的な生活習慣は十分身に付いているとは言えないようです。児童の行為を認めつつも、さらに習慣化できるように指導していきたいと思います。
- ・ 休み時間に運動場へ出て元気に遊ぶ児童が多くいますが、学年が上がるにつれ、減少傾向となっています。体力増強と気分転換等からも運動は大切です。教師も児童に声を掛け一緒に遊ぶ姿も多く見かけました。また、人との関わり方を遊びの場面からも学ばせていきたいと思っています。
- ・ 「困ったときに先生に相談する」の項目でも学年が上がるにつれ、減少傾向が如実に表れています。思春期を迎えるようになるとなかなか自分からは教師に言いに行けないことは多くなりますが、声掛けやアンケートにより、児童の困りごとを早期に発見し、面談することによりその解決を図るようにしていきます。また、養護教諭及びスクールカウンセラーへの気軽に相談できる体制づくりからも児童の心の平穏を図っていきたいと考えます。

### 【授業】

- ・ 「授業が楽しい」と答える児童が多くいました。また、本年度は「思考過程を表現する活動を通して、説明する力を培う」を現職教育の主眼とし、算数科で思考ツールの有効な活用の研究を進め、自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えるというコミュニケーション能力を高めてきています。
- ・ 「授業はわかりやすく楽しい」と答える児童が85%となっていますが、さらにわかりやすい授業展開を工夫し、「全く」の児童を0%にしていかなければなりません。

### 【学校行事】

- ・ 「学校行事は楽しいか」の問いに対して96%が、「とても思う」「少し思う」と高い数値を示しています。学校行事をさらに充実したものにしたいと考えています。
- ・ 地震・火災・津波に対する避難訓練を定期的に様々な場面を想定して行うことで、児童も静かに落ち着いて機敏に行動できるようになってきています。ふざけて取り組む児童の姿も見られません。

### 【教職員の資質向上】

- ・ 校内教育研究では、算数教育、ハイパーQ U結果の活用、合唱指導等、講師を招聘し研修を深めることができました。また、食育、そろばん、話し方などの出前授業を児童を対象に行い、実りあるものになりました。

## 5 改善点

- ・ 今年度は6年生を対象に児童専用の携帯電話やスマートフォンの所持の様子を調査しました。40%ほどの児童が所持していることから、「保護者向け携帯スマホ教室」へも多くの参加がありました。学校では、情報モラル教育にも更に力を入れて行きたいと考えます。